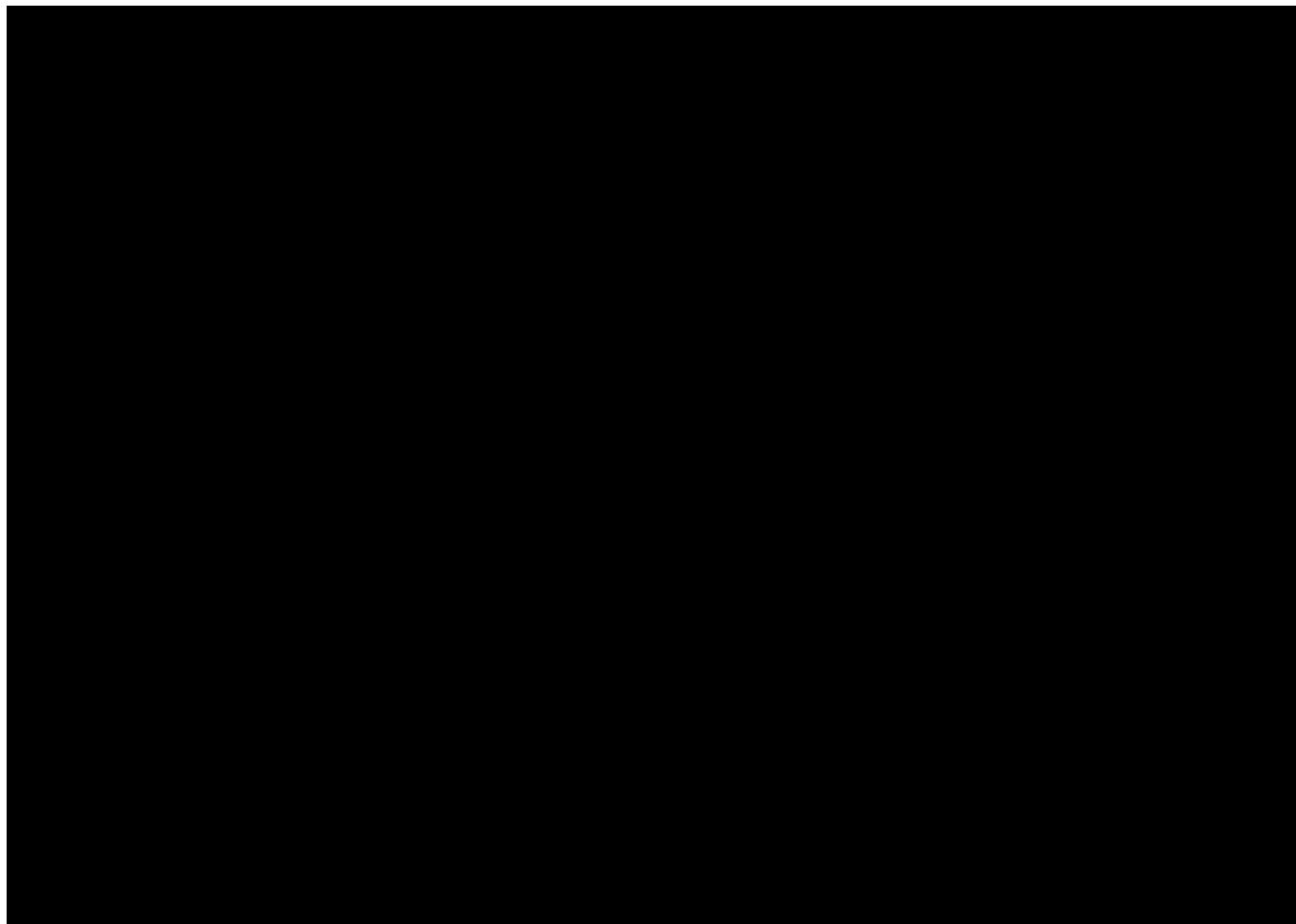


沿革

1629 年徳川御三家・水戸藩の初代頼房が三代将軍家光よりこの地を与えられ、江戸上屋敷とし、本邸と共に庭園も着工した。2代光圀も父の未完成部分を完成させた。このとき光圀は明から招いた儒学者・朱舜水の意見を聞き中国風の庭園にした。「後樂園」という名称も朱舜水が范仲淹(はんちゅうえん)による「岳陽楼記」の「士は天下の憂いに先んじて憂い、天下の樂に後れて樂む」による。

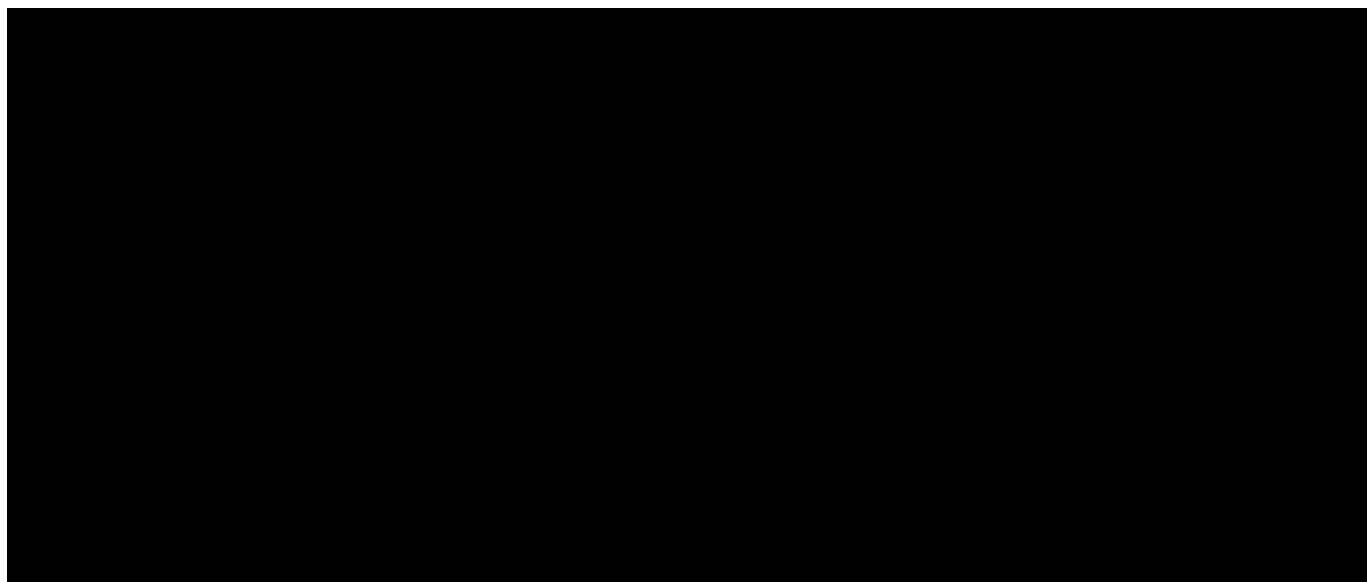
庭園の特徴

①構成は伝統的 ②名所写し ③中国庭園様式が入っている ④富士山形の大築山がある

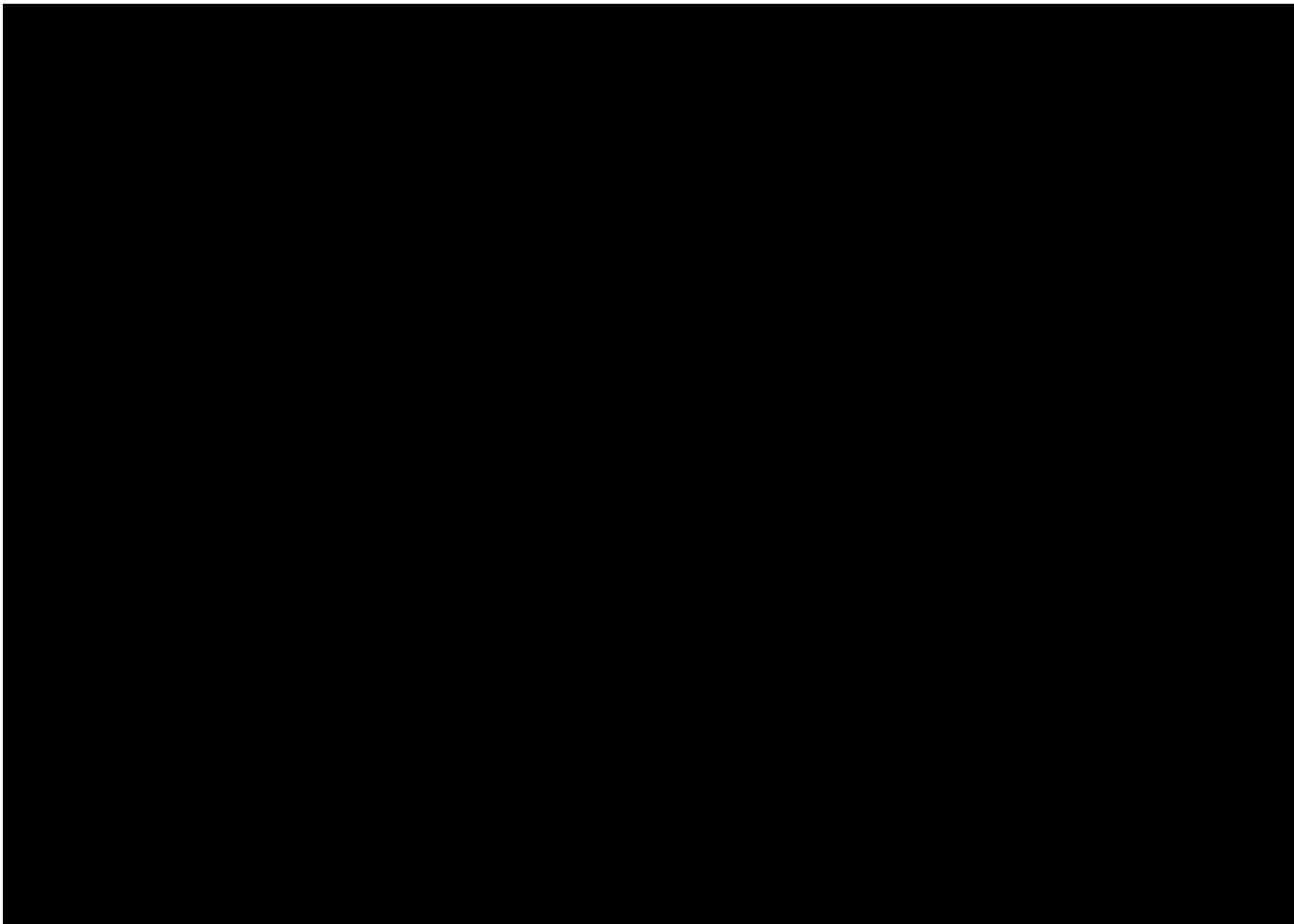


亀島(蓬莱山)には徳大寺石と称せられる巨大な板状の石(幅2m、高さ4m)がある。

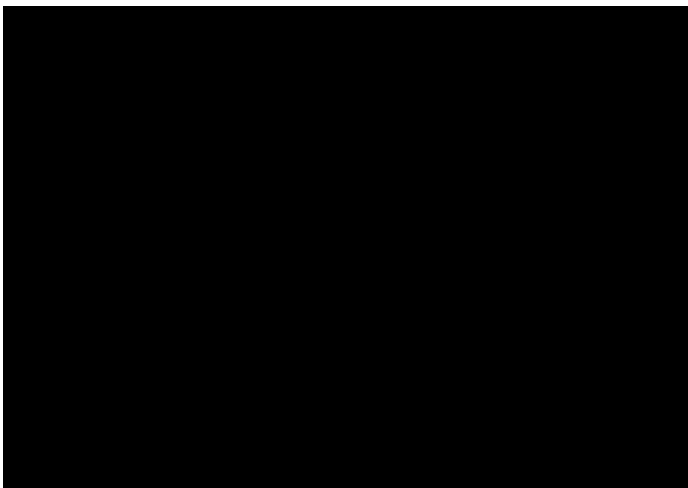
広大な庭園であるが、この石によって印象付けられる。



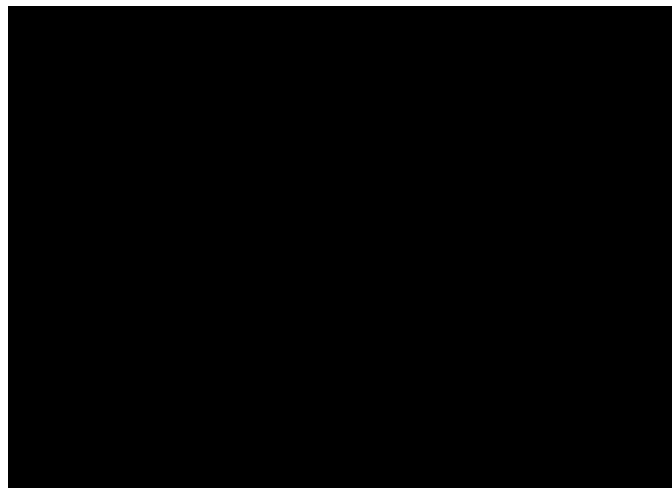
亀が蓬莱島を背負った景 亀島と蓬莱島は巨大な板状石によって繋がっている



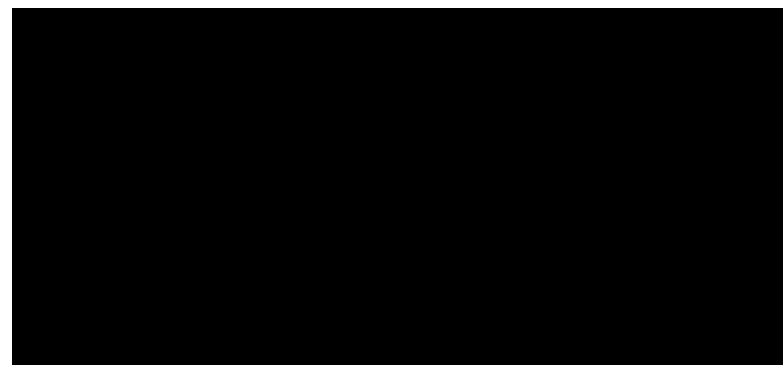
通天橋と山畔の豪華な枯滝に注目



沢渡り 大堰川上流



白糸の滝 大名の庭の滝は巨石により豪華なものになる。



西湖にある石堤を模して作った(水戸光圀が招いた儒者・朱舜水の指導で作られた)



円月橋

